

〔新儀式臨時〕童相撲事

臨昏黑時、主殿寮入左青鎖和徳兩門、各供炬火事畢還御、

〔日本書紀雄略十四〕十三年八月、播磨國御井隈人文石小麻呂有力強心肆暴虐、於是天皇遣春日小

野臣大樹、領敢死士一百、並持火炬圍宅而燒時、自火炎中白狗暴出、逐大樹臣、

〔東大寺要録五〕年中節會支度寬平年中日記

一十四日二月万燈會

二石五斗御明坏万口直 一石五斗燈柱直 一石四面點家拏木直 二石柱。松。四十抱直

〔今昔物語二十五〕平維茂郎等被殺語第四

太郎介モ主ノ送リシテ私ノ宿ニ行ヌ、其ニモ私ノ儲爲ル者共有ケレバ、様々ニ食物菓子酒秣菟

ナド持運テ喰ル、九月晦比ノ事ナレバ、庭暗ケレバ所々ニ柱。松。ヲ立タリ、太郎介物食ヒ畢テ高枕

シテ寢ヌ、略 介ガ臥タル所ニハ、布大幕ヲ二重計引キ廻シタレバ、箭ナド可通クモ无シ、庭ニ立

タル柱松共ノ光リ晝ノ様ニ明シ、郎等共不緩シテ廻レバ、露ノ怖レ可有クモ无シ、

〔狭衣三中〕た。ち。あ。か。し。の。ひ。る。よ。り。も。あ。か。き。に。わ。か。宮。の。御。な。を。し。な。ど。あ。ざ。や。か。に。玄。た。て。ら。れ。給

へ。る。お。と。な。し。き。御。さ。ま。の。ゆ。、し。さ。を。誰。も。く。涙。を。な。が。し。て。見。奉。る。に。略

〔徒然草止〕何事もふるぎ世のみぞ玄たはしき、今やうは無下にいやしくこそなりゆくめれ、略

いにしへは車もたげよ、火か、げよとこそいひしを、今やうの人はもてあげよ、かきあげよとい

ふ、主殿寮の人数だてといふべきを、たちあかしまろくせよといひ、最勝講の御聽聞所なるをば、

御かうのろどこそいふを、かうろといふくちおしとぞ、ふるき人は仰られし、

〔倭名類聚抄十二〕庭燎 四聲字苑云、燎力照反、和名瀧波、庭火也、

〔箋注倭名類聚抄四〕周禮司烜氏注、樹於門外曰大燭、於門内曰庭燎、玉篇、火在門外曰燭、於内曰

庭燎